



伊達博物館改築事業基本計画(案)

2020(令和2)年9月
宇和島市

1 伊達博物館の概要

施設名	宇和島市立伊達博物館
所在地	愛媛県宇和島市御殿町9番14号
展示内容	公益財団法人宇和島伊達文化保存会が所蔵する文化財・資料等の展示

開館年	1974(昭和49)年	展示室	697.52㎡
建築面積	760.00㎡	収蔵庫	340.17㎡(※伊達家の蔵2棟含む)
延床面積	1,505.02㎡		



2 改築の背景

宇和島市立伊達博物館は、1974(昭和49)年の開館より半世紀を迎えようとしています。2000(平成12)年と2013(平成25)年に大規模修繕を行いました。築40年以上を経過した博物館本体及び設備施設の経年劣化は激しく、近い将来起こるとされている南海トラフ大地震に対する耐震性もありません。そこで宇和島が誇る歴史文化を安心して後世につなぎ、その魅力を市民はもとより、国内外に発信するための施設として、新たな博物館を整備することになりました。

現状の課題

- ◆ 建物本体や設備の経年劣化が激しい。
- ◆ 南海トラフ大地震に対応できる耐震性がない。
- ◆ 津波や洪水により収蔵資料が水没する危険性がある。
- ◆ 木造蔵の資料が火災により焼失する危険性がある。
- ◆ 収蔵庫不足(伊達家の木造蔵に分散保管)。
- ◆ 文化財を公開する環境・機能が十分ではない。
- ◆ バリアフリー化されていない。等



伊達家の木造蔵



収蔵庫不足

3 新博物館の基本理念

2019(令和元)年「宇和島市立伊達博物館改築事業基本構想」において、新博物館の基本理念が策定されました。

地域の歴史文化の再生、共創の象徴となるべき博物館

新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館

4 新博物館のビジョン

新しい博物館は、宇和島市の多様で豊かな自然や歴史文化について、市民や来館者の皆さんとともに保全・継承し、その魅力を広く発信します。
このことにより、宇和島市の特徴とすばらしさに気づき、地域をより良くしようとする人々が集い、誇りと活気に満ちた、美しいまちづくりを目指します。

5 新博物館の使命

新しい博物館は、かけがえのない地域の財産である歴史文化を保全・継承して、その魅力を広く発信するために、以下の使命を掲げて活動します。

宇和島の
歴史文化の継承

郷土学習
市民交流の促進

伊達文化エリアの
観光拠点化

市民の知的関心に応えるため、歴史文化に係る資料及び情報を収集し、それを調査研究し、展示・普及させることで、歴史博物館としての役割を果たします。

地域の歴史文化に対する市民の理解を深め、また、理解しようとする人々の交流を促進し、良い未来に向かって市民とともに新しい価値を創造します。

魅力ある財産として地域の歴史文化に光をあて、その活用を通して、観光を中心とした地域振興に貢献します。

6 新博物館の基本方針

新しい博物館は、使命を実現するために以下の取り組みを行います。

1
展示

① 展示は実物資料を中心とし、映像、音声、模型及び参加体験型展示等の手法も取り入れ、わかりやすく親しみのある展示を行います。

② 資料の展示にあたっては、その保存と管理に十分配慮します。

③ 資料の調査研究結果を展示に活用します。

2
資料の収集、
保管及び研究

① 体系的に資料を収集、整理及び保管し、市民共有の財産として次世代に継承します。

② 関係機関と協働して資料整理を行います。

③ 調査研究を継続的にを行い、新たな事実や価値を発見して、博物館活動に反映します。

3
情報の
発信と連携

① 歴史文化の研究拠点として情報を発信し、収集した資料、図書及び調査研究の成果を公開します。

② 市民、来館者及び関係機関との連携を密にして、博物館活動を展開します。

4
教育普及

① 調査研究に基づいた企画展や特別展を開催するとともに、講座や講演を通じて、市民の知的関心に応えるよう努力します。

② 学校教育における歴史文化の学習を積極的に支援し、次世代を担う子どもたちの郷土愛を育みます。

③ 市民や来館者と歴史文化を通じた交流を促進し、生涯学習や生きがいづくりの推進に寄与します。

5
施設の
安全と管理

① 安心と安全を第一に、誰にでもやさしい博物館運営を心がけます。

② 引き継がれた歴史文化を確かに次世代につなぐため、想定される災害等の危機を管理できる設備の充実に努めます。

6
建設手法と
コスト意識

① 新博物館の建設にあたっては、都市再生整備計画事業を活用し、地域の歴史や文化を活かしたまちづくりの拠点施設として、博物館機能と相乗効果を発揮できる施設と一体整備します。

② 省エネルギー化や運営方法を工夫するなどして、施設維持費の縮減を目指します。

7 新博物館の展示計画

宇和島圏域全体の歴史文化の魅力をわかりやすく紹介します。

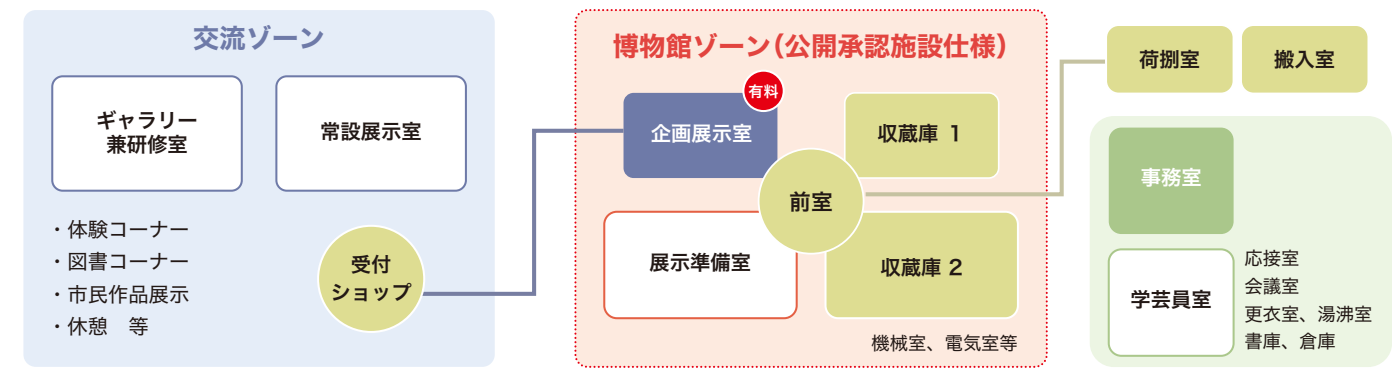
新博物館では、宇和島伊達文化保存会を中心とした文化財や資料を展示する企画展示室に加え、常設展示「宇和島の総合ガイダンス」を新設します。映像や参加体験型の展示などにより、親しみやすくわかりやすい展示手法で、旧宇和島城下にとどまらず吉田、三間、津島も含めた宇和島圏域全体の歴史文化を紹介します。さらにギャラリーは、宇和島や伊達家と親和性のあるテーマを中心とした幅広い利用を可能とし、宇和島圏域全体の文化芸術のプラットフォームとなるべく博物館を目指します。



8 新博物館のゾーニング

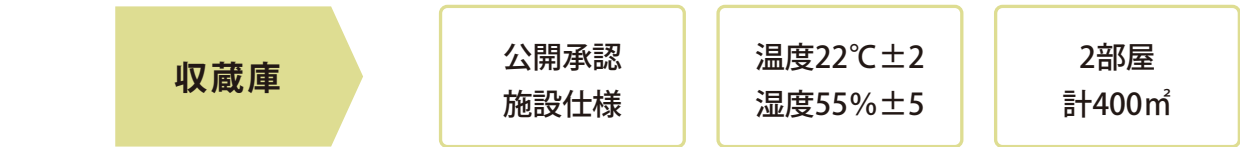
貴重な文化遺産は、浸水リスクを考慮し、地盤面より5m以上に保存・公開します。

- ◆「博物館ゾーン」と市民や観光客が日常的に利用できる「交流ゾーン」とで構成します。
 - ◆博物館ゾーンは、文化庁の指導を受け公開承認施設仕様で設計します。
 - ◆文化財を保存・公開する収蔵庫や企画展示室及び関連諸室は、津波や水害から文化財を守るため、地盤面より5m^(※)以上に設置します。
 - ◆交流ゾーンは、地域の歴史文化の再生と共創の場として役立て、誰でも利用しやすいよう1階に設置します。
- ※ 津波浸水深さ 4.5～5.0m(宇和島防災マップより)



収蔵庫の仕様

現博物館収蔵庫・倉庫、伊達家蔵2棟の合計(340.17㎡)以上の面積を確保、更に収蔵棚で収納容量を拡大します。2室のうち1室は宇和島伊達文化保存会の資料、1室は宇和島市の資料を保存します。



9 新博物館の規模

新博物館の延べ床面積は4,000㎡を目途に計画します。

博物館ゾーンは、津波・水害からのリスクを避けるため、地盤面より5m以上に設置する必要があります。展示室700㎡、収蔵庫400㎡、前室や展示準備室など関連諸室を加えると、2階以上に約2,000㎡の床面積が必要となります。従って新博物館の延べ床面積は、4,000㎡を目途に計画します。

新博物館の諸室構成

部 門	諸 室	面 積
博物館ゾーン	企画展示室、収蔵庫、展示準備室、前室、搬入室、荷捌室 等	1,200㎡
交流ゾーン	常設展示室、ギャラリー兼研修室、交流ロビー、受付、ショップ 等	1,000㎡
共用・管理・調査研究ゾーン	エントランス、事務室、学芸員室、倉庫、機械室 等	1,800㎡
合計		4,000㎡

諸室構成及び面積は現段階での想定です

10 立 地

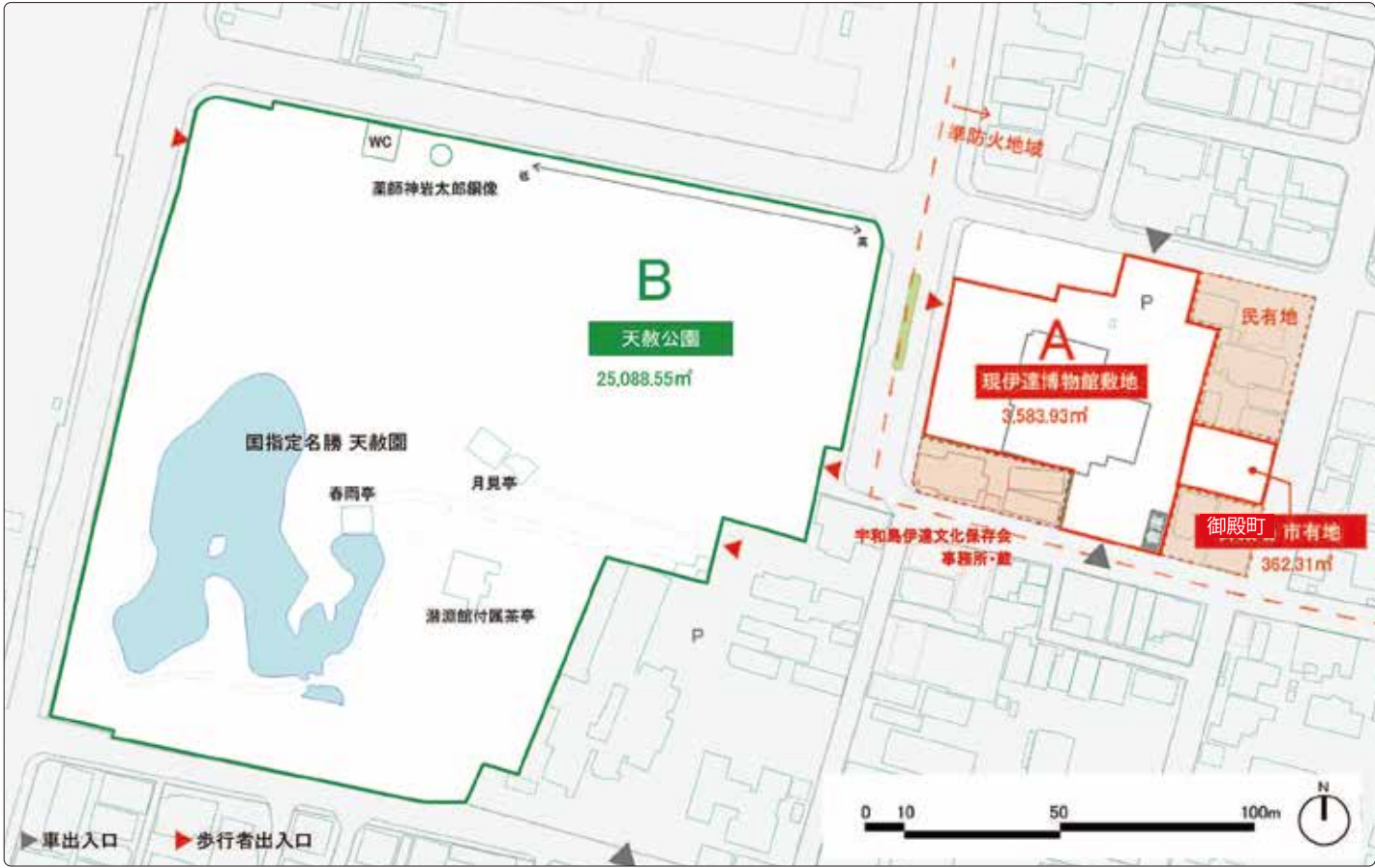
天赦公園内へ移転します。

立地の条件に合う土地を調査したところ、現博物館敷地[A]と天赦公園[B]の2候補が浮上。検討の結果、天赦公園内に移転することに決定しました。

◆ 立地の条件	◆ 天赦公園の概要
1 立地適正化計画における都市機能誘導区域内 2 宇和島市都市計画マスタープランにおける「伊達文化エリア」 3 現伊達博物館敷地と同等以上の面積 4 市有地及び伊達家にゆかりのある土地	敷地面積 25,088.55㎡ 地名地番 宇和島市天赦公園101-1 ほか 地権者 宇和島市、伊達家 用途地区 第1種住居地域 建蔽率 12%※ 容積率 200% ※都市公園法関係法令の特例による

天赦公園に決定した理由

- ◆天赦園との一体的な整備が可能、現博物館敷地も含め「伊達文化エリア」の魅力を向上させ、基本理念「新しいまちづくりと景観の美しさの象徴となるべき博物館」をより具現化できます。
- ◆解放的な公園内に建設すると、視認性が向上しランドマークとして機能します。
- ◆現博物館を開館しながらの建設で、休館期間を最小限に抑えられます。
- ◆資料を仮保管場所に移す必要がなく、引っ越しが1回で完結。資料破損のリスクも、運搬コストも軽減できます。
- ◆災害の安全性については、現博物館敷地の方が若干有利ですが、隣接地であり実質的に大きな差異はありません。事前の土質調査等により地盤の特性を把握した上で、安全性の高い博物館を建設します。



配置計画

天赦園、現博物館敷地と一体的な整備で伊達文化エリア全体の魅力向上を実現します。

決定事項

- 天赦園から宇和島城への眺望を確保します。
- 天赦園から宇和島城への眺望と緑の広場確保のため、新博物館は天赦公園西側に建設します。
- 工事期間中も含め、児童公園の機能は維持します。
- 工事期間中も含め、公園内にはトイレを設置します。

検討事項

- 新博物館から宇和島城への眺望が確保できるよう努めます。
- 駐車場については必要な台数を確保します。
- 位置等については利便性や安全性を考慮しながら検討していきます。



宇和島城への眺望



児童公園について

天赦公園の西にある遊具広場(約2,300㎡)は、工事期間中敷地東側に移設し、新博物館完成後は現博物館敷地に児童公園を新設します。



12 事業スケジュール案

2026(令和8)年度の開館をめざします。

